

ぎふ地域の絆づくり 支援センターだより

—— 地域で活発な活動団体を紹介します! ——



第41号
令和7年7月発行

岐阜県環境エネルギー生活部
県民生活課
ぎふ地域の絆づくり支援センター
〒500-8570
岐阜市藪田南2-1-1(県庁9階)
電話 058-272-8199

50 多治見市第34区ホワイトタウン自治会(多治見市)

活動地域: 脇之島地区 活動拠点: ホワイトタウン自治会センター 代表: 小栗 久実

地区の概要

多治見市は、古くから陶磁器やタイルなど美濃焼の産地として発展し、丘陵部の宅地開発や土岐郡笠原町との合併などにより、中核都市となっている。

東濃地方の交通の拠点であり、産業・文化・経済の中心地である。

多治見市を貫く土岐川の南側に位置するホワイトタウンは、緑豊かな丘陵に拓かれた約2,400世帯が居住する団地である。

【地区データ】 令和7年4月1日現在
人口: 5,628人 世帯数: 2,626世帯

多治見市第34区ホワイトタウン自治会の概要

多治見市第34区ホワイトタウン自治会には、19の町内会があり、それぞれに町内会長、町内会副会長、班長および各種委員で組織されている。ホワイトタウン住民向けの各種サービスの提供、イベントの開催、施設の維持管理などを行っている。

委員会: 体育委員会、青少年委員会、福祉委員会
防災委員会

自治会補助機関: 「ふれあいセンターわきのしま」
(脇之島地域福祉協議会)

ボランティアによる各種住民サービスを提供している。

自治会のデジタル化

デジタル回覧板

ホワイトタウン自治会における回覧板のデジタル化は、多治見市によるデジタル回覧板システムの試行運用にいち早く参加する形で令和6年8月に開始した。令和7年度から多治見市は本格運用を開始し、市内の他の自治会でも利用が拡大している。

現時点では、従来通りの紙の回覧板とデジタルの回覧板を併用して利用している。

デジタル化した回覧板は、何処に居ても好きな時間に情報を閲覧できるうえ、急いで回してしまった回覧板の内容や読み飛ばしてしまった情報なども後から確認できるため、利用を始めた会員からは、「使い勝手が良い」と好評である。



配信する資料

- ① 多治見市広報誌「たじみすと」
- ② 全市配布の回覧文書
- ③ 緊急情報(音声データ)
- ④ 自治会からの回覧文書・全戸配布文書
- ⑤ 公民館、学校関係の回覧文書・全戸配布文書
- ⑥ 町内会独自の回覧文書・全戸配布文書
(当該町内会の会員のみ閲覧可能)



会員への普及について

デジタル回覧板の登録案内は、スマートフォンが得意でない会員にもイメージしやすいように、イラストを使った説明文を配付している。

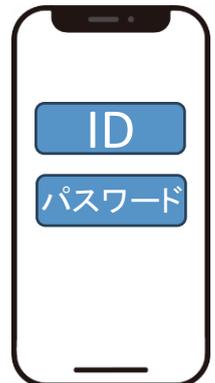
各会員の登録作業は、スマートフォンに専用ソフトウェアをダウンロードした後に、自治会独自の「ID」と「パスワード」を入力するだけで完了する。登録して直ぐに閲覧が可能となる。

メールアドレスなどの個人情報の登録は不要のため安心して登録ができる。

配信する資料は、PDF加工したデータを読み込むだけで完了する。通常回覧板で配付するものは、全てデータ化している。

「お知らせ」のうち、自治会からのものは、【自】の文字を表示して、行政からの「お知らせ」と区別できるように工夫をしている。

また、紙面での住民配付を廃止していた南ヶ丘中学校の学校報は、デジタル化した回覧板として復活し、閲覧できるようになった。



自治会のデジタル化と地区防災活動

●情報のデジタル化

自治会業務の負担軽減のために、NAS(ネットワークに接続している補助記憶装置)を使用して情報の共有化を行っている。

資料などのデータを、まとめて保管して、必要な時にネットワーク経由でアクセスできる仕組みを構築している。

役員会、委員会、専門委員会の担当者が、それぞれ個人でバラバラに保管していた情報を一元化して管理することで、マスターデータの保管、業務の効率化、役員の事務負担の軽減につながっている。

ルールを決めてフォルダーに保管することで検索が早くなり、インターネットに接続して情報にアクセスできるため、休日でも自治会事務所に出向くことなく自宅から情報の確認ができる。

平日の夜間でもアクセスが可能のため、確認作業や情報共有はスムーズである。

そのため、平日勤務の職業を持つ役員でも、自治会の役員としての業務が果たせている。



●34区合同防災訓練

毎年、消防訓練場で水消火器の消火訓練、地震体験車、煙中ハウスを使用した防災指導など多彩な訓練を行っている。

水消火器での消火訓練は、目標物に向かって水を噴射する。

また、消火栓とホースを接続しての放水訓練も行っている。放水訓練は4人が一組となって取り組む本格的なものとなっている。



合同訓練の様子



●安否確認訓練

災害時の安否確認の方法として、「無事です」カードを各家庭の玄関に張り付ける訓練を行っている。

「無事です」カードを張り付けていない家には、班長が安否確認を対面で行う。実際の災害時を想定した行動訓練である。訓練では、会員の9割以上の安否確認ができています。



「無事です」カード

今後の展望

今後は、回覧板のデジタル化普及のために、会員への更なる啓蒙活動を行っていく予定である。

防災訓練については、これまで個別的な訓練が中心であったので、実際の災害時を想定した総合的な訓練を行い、被災後の会員の受入れ体制についても力を入れていく。また、防災行政無線(緊急放送)を補完するものとして、緊急時におけるデジタル回覧板の活用方法も検討していきたい。

取材を終えて

多治見市第34区ホワイトタウン自治会は、防災活動以外にも家族の日ラジ体操、ホワイトタウン夏祭り、区民大会など様々な活動を行っている。これらの活動の維持のためにも、運営方法のデジタル化による役員の負担軽減と情報の共有化が重要となっている。

自治会の活性化には、現役世代の積極的な自治会活動への参加が望まれている。そのため、現役世代が働く環境と同様のIT・デジタル環境の導入が、これからの自治会にも必要であると思われる。

関係者の皆様、取材にご協力頂き、ありがとうございました。

ぎふ地域の絆づくり支援センターからのお知らせ

地域の課題解決応援事業

防災・防犯、福祉、環境保全、青少年の健全育成、地域文化の伝承、まちづくり活動など、多くの住民の皆さんが共通して抱えている身近な地域の問題や課題の解決のお手伝いをします!

地域の課題解決応援事業



課題解決応援事業はこちらから

ぎふ地域の絆づくり支援センターだより

「ぎふ地域の絆づくり支援センターだより」は、岐阜県のホームページのぎふ地域の絆づくり支援センターのコーナーからご覧いただけます。

ぎふ地域の絆づくり支援センターだより



支援センターだよりは こちらから

